

# 成人診療科への移行を一緒に考えてみませんか？

## 成人診療科への移行は どうして必要なの？



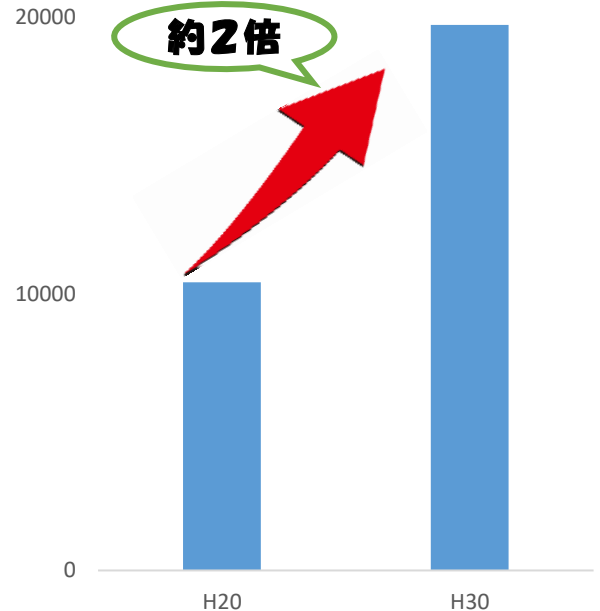
医療の進歩に伴い、小児期発症の慢性疾患を有するお子さんたちも、医療的ケア※を行いながら療養を続けることができるようになりました。

その一方で、大人になってからも小児科で治療を続けるケースも増加し、小児科では年齢に伴う新たな疾患に対して適切な医療が受けられない状況も出てきました。

小児科・成人診療科のそれぞれのメリット・デメリットを理解し、適切に受診していくことが、病気と付き合う上でとても大切です。

※医療的ケア：人工呼吸器や胃ろう、たんの吸引、経管栄養等の生きていくために必要な日常的なケア

■医療的ケア児数の推移 <推計値（人）>



(参考)H30厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」の報告

### 成人期特有の疾患への対応

加齢に伴う変化や生活習慣病等に対し、小児科医と成人診療科医が連携して対応することで、それぞれの疾患に対して適切な治療が行えます。

### 成長・発達に合わせたサポート

教育・就労・妊娠や出産など、成長・発達を踏まえて小児科医と成人診療科医が連携することで、ライフステージに応じた治療が行えます。

### セルフケアに向けた支援

年齢とともに変化する身体の状態を、自分自身で理解することで、症状悪化の兆候などにも素早く対処できるようになるなど、セルフケアの力が高まります。

大人になっても適切な治療が受けられるよう、小児期医療から成人期医療へスムーズな橋渡しを行う医療を「移行期医療」と言います。



# 移行期医療 Q & A



すべての病気で移行は必要ですか？

小児科でしか対応できない病気もあります。お子さんの状況に応じて、成人診療科での診療の必要性を検討し、成人診療科でも対応できる病気や診療の一部（検査や入院など）を、小児科だけでなく成人診療科にも協力してもらうという考え方です。

転科、転院したらもう小児科では診てもらえませんか？

そのようなことはありません。

定期受診は成人診療科で、病気が悪化してしまった際は小児科で診てもらうなど、成人診療科と小児科で連携しながら診療することも可能です。

連携体制を整えるためには、十分な準備期間が必要になりますので、適切な時期から準備を始めていくことが大切です。

移行に向けた準備は何歳くらいから始めたら良いですか？

疾病やそれぞれの状況によっても異なりますが、中学生頃から相談を始めて、18-20歳頃に成人診療科へ移行出来ると望ましいとされています。



年齢に応じた適切な医療を受けるために、主治医や看護師さんたちと相談を進めていきましょう。